短答過去問解法分析講義ガイダンス
補助レジュメ

問題 予備試験Ｈ２３［民法・商法・民事訴訟法］第２５問

〔第 25 問〕（配点：２）

株式会社を各当事会社とする合併に関する次のアからオまでの各記述のうち，正しいものを組み合わせたものは，後記１から５までのうちどれか。（解答欄は，［№27］）

ア．吸収合併の場合，いわゆる合併差損が生ずる合併は，することができない。

イ．吸収合併の場合，存続会社は，消滅会社の株主に対し，合併対価を何ら交付しないこととすることができる。

ウ．吸収合併の場合，消滅会社の解散は，吸収合併の登記の前でも，悪意の第三者に対抗することができる。

エ．新設合併の場合，新設合併契約を承認した消滅会社の株主総会の決議に瑕疵があることを理由として新設合併の無効の訴えを提起するときは，設立会社を被告としなければならない。

オ．新設合併の場合，設立会社を株式会社としなければならない。

１．ア　イ　　２．ア　ウ　　３．イ　エ　　４．ウ　オ　　５．エ　オ

問題 司法試験Ｈ２７刑法１０問（予備試験Ｈ２７[刑法・刑事訴訟法]第８問）

〔第 10 問〕(配点：２）

次の【記述】中の①から⑨までの () 内から適切な語句を選んだ場合，正しいものの組合せは，後記１から５までのうちどれか。(解答欄は，［No.17］)

【記　述】

強盗罪における強取とは，相手方の反抗を①（ａ．困難にする・ｂ．抑圧する）に足りる程度の暴行・脅迫を加え，相手方の②（ｃ．意思に反し・ｄ．瑕疵ある意思に基づき)，相手方の占有に属する財物を自己又は第三者の占有に移転することをいう。強取と③（ｅ．窃盗罪における窃取・ｆ．恐喝罪における喝取）との区別は，実行行為としての暴行・脅迫の有無であり，強取と④（ｇ．窃盗罪における窃取・ｈ．恐喝罪における喝取）との区別は，相手方の反抗を①（ａ．困難にする・ｂ．抑圧する）に足りる程度の暴行・脅迫であるか否か，つまり，暴行・脅迫の程度である。それゆえ，恐喝罪は，⑤（ｉ．委託物横領罪・ｊ．詐欺罪）と同様，相手方の⑥（ｋ．意思に反し・ｌ．瑕疵ある意思に基づき)，財物を交付させる犯罪である。そして，強盗罪や⑦（ｍ．窃盗罪・ｎ．恐喝罪）のように，相手方の②（ｃ．意思に反し・ｄ．瑕疵ある意思に基づき)，相手方の占有に属する財物を自己又は第三者の占有に移転する犯罪を⑧（ｏ．奪取罪・ｐ．交付罪）と呼び，恐喝罪や⑤（ｉ．委託物横領罪・ｊ．詐欺罪）のように，相手方の⑥（ｋ．意思に反し・ｌ．瑕疵ある意思に基づき)，相手方の占有に属する財物を自己又は第三者の占有に移転する犯罪を⑨（ｑ．奪取罪・ｒ．交付罪）と呼んで区別することができる。

１．①ａ ②ｃ ③ｅ ④ｈ ⑤ｊ ⑥ｋ ⑦ｎ ⑧ｐ ⑨ｑ
２．①ｂ ②ｃ ③ｅ ④ｈ ⑤ｊ ⑥ｌ ⑦ｍ ⑧ｐ ⑨ｑ
３．①ａ ②ｄ ③ｆ ④ｇ ⑤ｉ ⑥ｌ ⑦ｎ ⑧ｐ ⑨ｑ
４．①ｂ ②ｄ ③ｆ ④ｇ ⑤ｉ ⑥ｋ ⑦ｍ ⑧ｏ ⑨ｒ
５．①ｂ ②ｃ ③ｅ ④ｈ ⑤ｊ ⑥ｌ ⑦ｍ ⑧ｏ ⑨ｒ